

# 第8回受賞 平成30年(2018年)

## 受賞テーマ

**「希少頻度のドライバー遺伝子異常を有する肺癌に対する個別化医療の確立を目指した治療開発体制の構築」**

＜所属・職位は受賞当時＞

＜代表者＞ 河野 隆志（国立がん研究センター研究所 ゲノム生物学研究分野 分野長）  
後藤 功一（国立がん研究センター東病院 呼吸器内科 科長）



第8回受賞研究テーマ『希少頻度のドライバー遺伝子異常を有する肺癌に対する個別化医療の確立を目指した治療開発体制の構築』に関する研究成果は、肺癌のゲノム医療の基盤構築に大いに貢献するものです。肺癌では、EGF受容体遺伝子変異やALK融合遺伝子変異など多くのがんドライバー遺伝子変異が同定されてきましたが、このたび受賞者らは、希少変異であるRET遺伝子融合変異を持った肺癌患者の薬剤耐性メカニズムを明らかにし、新たな治療戦略を確立しました。この過程では、国内初となる産官学共同の多遺伝子スクリーニング機構であるLC-SCRUM-Japanを立ち上げ、RET有効遺伝子のみならず様々な遺伝子異常陽性例を捕捉し、多くの治験推進へつなげることに成功しました。この研究成果は、いわゆる日本版がんPrecision医療を進展させ、そしてグローバルのがん医療にも貢献するものです。